

令和 6 年度使用

小学校用教科用図書研究資料

国 語

教科用図書南那珂採択地区協議会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 単元の構成に関しては、各単元「見通す」「取り組む」「ふり返る」の３段階での学習過程とされており、「ふり返る」段階の「言葉の力」において、単元で育成する力を示すことで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、指導事項を重点化して段階的に位置付け、６年間を通して螺旋的・反復的に言葉の力を身に付けさせるための工夫が見られる。また、文法と語彙に特化した教材を設け、その中に文を書く活動を取り入れながら、日常の場で使えるようにするための工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の構成に関しては、「見通しをもとう」「学習の進め方」において、四つのステップでの学習過程とされており、また、各単元末の「ここが大事」で学習のポイントを示すことにより、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、一つの領域に集中して学習する「基本単元」、複数の領域を関連させて学習する「関連単元」をバランスよく位置付け、指導の重点化を図る工夫が見られる。また、年間を通して使える教材を設け、「書くこと」の日常化に対応できるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 単元の構成に関しては、領域に応じた学習過程とされており、導入で「問い」と「目標」を示して見通しをもたせ、終末の「たいせつ」で学習のポイントを示すことで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、複数の領域を組み合わせる一つの単元を設けるなど、効果的に言葉の力を身に付けさせる工夫が見られる。また、各学年に、読書活動「本は友達」、言語の特質や運用「言葉について考えよう」などの特設単元を設け、学習したことの日常化を図る工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元の導入でイラストや写真を挿入して児童の学習への期待感を高めたり、「言葉の力」で、身に付けさせる具体的な言葉の力を図解やイラストとともに示したりするなどの工夫がある。また、友達と考えを共有する活動やグループで協力して資料作成や発表を行うなどの協働的な学びにより、主体的・対話的に学習を進められるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「言葉相談室」を設け、身近な事物や様子・心情、思考などを表す言葉を取り上げ、語彙を増やして表現を豊かにする力を高める工夫が見られる。また、「言葉の広場」では、発達の段階に応じた言葉を数多く掲載することで、語彙指導の充実を図る工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元冒頭に設定した「見通す」及び「言葉の力」で児童の学びへの自覚を促し、単元末に設定した「ふり返る」及び「生かそう」で児童が自己の学びを振り返ったり、他教科や日常生活へ生かしたりすることができるよう工夫が見られる。また、「見通す」では、学び方や読解の手立てを示すことで、児童の思考を深めることにつながる工夫が見られる。
17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「読むこと」単元の導入「学びの扉」では文やイラストで児童の学習への期待感を高めたり、「見通しをもとう」で言葉による見方・考え方を働かせる思考の流れを示したりするなどの工夫がある。また、意見や感想を述べあう「つたえあおう」やグループで調べて発表する協働的な活動が設定され、主体的・対話的に学習を進められる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「言葉」「言葉をふやそう」を設け、教材文で使用された特徴的な語句の使い方を重点的に指導できるような工夫が見られる。また、「言葉の木」では、児童がひとつの言葉から連想によって言葉を増やすことができるような語彙指導の充実を図る工夫が見られる。

17 教 出	(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元末に設定した「学習のてびき」の「ここが大事」で、児童が学習したことを他教材でも活用できるような工夫が見られる。また「読むこと」単元の「見通しをもとう」では、４ステップの学習過程、学習活動を支える思考ツールや図による解説、児童の問いの例などを視覚的に示し、児童の思考を深めることにつながるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に「問いをもとう」が設定され、児童が単元で学ぶことを自分事としてとらえて学びを進められるような工夫がある。また、単元の最後には、興味に沿った課題を児童が選択して学びを進める活動、それぞれが深めた考えを持ち寄って交流する活動が設定され、主体的・対話的に学習を進められる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「言葉の宝箱」「伝え合うための言葉」「学習に用いる言葉」等、当該学年で身に付けさせたい言葉をまとめたページを設けたり、「季節の言葉」を特設したりして、語彙力を高める工夫が見られる。また、いくつかの「言葉」の教材にも問いをもたせるなど、語彙指導の充実を図る工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、単元末に設定した「学習」の中の「たいせつ」及び「いかそう」では、育成すべき力や手順、学びのポイント等が示され、児童が学習したことを他教科や日常生活へ活用できるような工夫が見られる。また、「読むこと」単元では、学習が一覧できるよう「見通しをもとう」から「ふりかえろう」までを見開きで示し、児童の思考を深めることにつながるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性については、「QR コンテンツ」の中に掲載されている漢字の読み方や筆順の確認ができ、対面授業だけでなく、家庭における自主学習にも活用できる工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、各領域の「言葉の力」が一覧としてまとめられており、児童が学びの確認を行うことができる工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性については、紙面上のQRコードを読み取ることにより、作者や画家の紹介や、単元に関連したwebページが閲覧できることで、発展的な学びに繋がる工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、単元末に学習内容のチェックリストがあり、児童が身に付けた力を自ら振り返ることができる工夫が見られる。
38 光 村	(1) 学習効果や使用上の利便性については、巻頭にブックインブックの形式で、当該学年と前学年の学習内容が示されており、児童が学習の振り返りを進んで行えるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、「書く」「話す・聞く」の単元に学習事項のチェックリストがあり、児童が学びの確認を自ら行うことができる工夫が見られる。

4 地域の願い思い、児童の実態等

〔観点4〕 家庭や地域と連携した学習の推進とともに、児童の確実な基礎・基本の定着という視点からどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 家庭や地域との連携が図れるように、言語事項の活用場面を示した「情報のとびら」を各学年設定しており、児童が親しみやすいような漫画を基にして問題提起をすることで、日常化を図っていくポイントがわかりやすくまとめられている工夫が見られる。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元間に「漢字を使おう」を各学年10程度設定したり、巻末資料に「学習で使う言葉」や「言葉の広場」を掲載したりすることで、6年間を通して螺旋的・反復的に言語事項を定着させる工夫や、工夫が見られる。
17 教 出	(1) 家庭や地域との連携が図れるように、各単元の中に、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるようQRコードを多数掲載することで、興味に応じて学校内だけでなく学校外でも学習に取り組めるような工夫が見られる。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元末に「漢字の広場」「言葉の広場」「読書の広場」を複数配置し、既習事項の復習の場面や活用場面を設定することで、読むことや書くことなどの知識・技能を系統的に定着させる工夫が見られる。
38 光 村	(1) 家庭や地域との連携が図れるように、季節に応じた「春の〇〇」「夏の〇〇」などを設定し、季節の詩や短歌、俳句を紹介するとともに季節に応じた言葉を示すことで、季節を感じさせる言葉を用いた文章に親しませることで、実生活に結びつけるような工夫が見られる。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元末に「漢字の広場」を掲載し、前学年で学んだ漢字を反復練習する場面を設定し、生活場面のイラストとともに漢字を示すことで、日常生活の中での漢字を意識させ、日記や作文などの表現活動で活用できるようにするための工夫が見られる。